

平成20年度 富士見町のバランスシート

バランスシート(貸借対照表)の公表

企業会計的手法を用いて町の「資産」「負債」など財政の状況について、一般の皆さんにもわかりやすく明らかにするとともに、効率的な行財政運営を進めるための資料として活用するものです。

◇総務省「作成マニュアル」により作成してあります。(現在、地方公会計改革が進められています。町では平成20年度のバランスシートについては従来の方法で作成しています。地方公会計改革に対応したバランスシート等は、平成21年度決算から作成・公表を予定しています。)

◇数値は昭和44年以降の「決算統計」のデータを基礎としています。

◇対象は普通会計(一般会計と有線放送電話特別会計)で、水道会計、下水道会計、土地開発公社等は含まれません。(地方公会計改革では、これらの会計についても連結させ公表するよう求められています。)

◇有形固定資産の評価は「決算統計」における普通建設事業費の数値をもって有形固定資産の取得原価としています。土地を除く資産については所要の耐用年数を用いて、定額法により減価償却しています。

普通会計バランスシート

借 方		貸 方	
【資産の部】		【負債の部】	
1.有形固定資産		1.固定負債	
土木費	81億9,168万円	地方債	48億1,773万円
教育費	76億3,659万円	債務負担行為	—
農林水産業費	28億6,986万円	退職給与引当金	17億5,553万円
※行政目的別上位抜粋		固定負債計	<u>65億7,326万円</u>
有形固定資産計	<u>264億5,567万円</u>		
2.投資		2.流動負債	
投資及び出資金	2億3,639万円	翌年度償還予定額	4億9,477万円
貸付金	9,000万円	翌年繰上充当金	—
基金	16億3,488万円	流動負債合計	4億9,477万円
退職手当組合積立金	1億3,730万円	負債合計	<u>70億6,803万円</u>
投資等計	<u>20億9,857万円</u>		
3.流動資産		【正味資産の部】	
現金・貯金	25億712万円	1.国庫支出金	13億5,684万円
未収金	8,270万円	2.都道府県支出金	9億7,287万円
流動資産合計	<u>25億8,982万円</u>	3.一般財源	217億4,632万円
		正味資産合計	<u>240億7,603万円</u>
資産合計	311億4,406万円	負債・正味資産合計	311億4,406万円

資産の状況

町の有する資産は、311億4,406万円(対前年比△3.1%)で、前年より10億1,044万円減少しています。これは、資産総額の84.9%を占める有形固定資産が前年より7億1,600万円減少したことなどが主な理由です。有形固定資産の構成は、道路・橋梁・住宅等の土木費が31.0%、小中学校建設等の教育費が28.9%、農業基盤整備等の農林水産費が10.9%などとなっています。以下、商工費10.4%、総務費8.2%、民生費5.8%と続きます。

負債の状況

負債の総額は、70億6,803万円(対前年比△3.2%)で前年より2億3,171万円減少しています。これは、負債総額の75.2%を占める地方債の返済が順調に進んでいるためです。残高の合計は53億1,250万円(対前年比△4.2%)となりました。地方債は、長い年月をかけて返済しますが、返済額の一部に相当する額は毎年地方交付税として交付されています。

正味資産の状況

正味資産は、240億7,603万円(対前年比△3.1%)で前年より7億7,873万円減少しています。

バランスシートから見えること

○町の資産(311億4,406万円)や負債等(70億6,803万円)の状況を把握することができます。

道路、学校、社会教育施設等の建設やその土地の取得など今ある資産に対して、これまでの世代の社会資本の負担率が91.0%となります。(240億7,603万円(正味資産合計)÷264億5,567万円(有形固定資産合計)=91.0%)

これまでの世代の社会資本の負担率が高いということは将来世代の負担が少ないということになります。これは、社会資本整備を推進したことにより、近年大型の建設事業を行う必要がないためと、いままで整備にあてた地方債の返済が進んだことによります。

○地方公共団体の財政状況を判断するための「正味資産構成比率(正味資産÷総資産×100)」は、割合が高